

#### 4 徳島県立文学書道館

文学・書道資料の収集・保存、調査研究に努めるとともに、その成果を展示や催し、教育普及事業等に活かし、広く県内外から親まれる施設となるよう魅力ある事業展開を図った。

##### (1) 顕彰、表彰事業

|   | 事業名         | 概 要  | 金額(円)     |
|---|-------------|--|-----------|
| 1 | 第22回とくしま文学賞 | <p>広く県民から文芸作品(10部門)を募集し、発表の場を提供することにより、文芸活動の活性化、県民文化の向上を図った。令和6年度は、小説21人、脚本3人、文芸評論6人、児童文学8人、随筆44人、現代詩54人、短歌192人、俳句307人、川柳519人、連句20人の計1,174人から2,132点の応募があった。各部門の入選作品は「文芸とくしま」に掲載し、当館で表彰した。</p> <p>表彰式: 令和7年2月11日(火・祝)<br/>         応募者数: 1,174人<br/>         応募作品数: 2,132点<br/>         会場: ギャラリー</p> | 1,445,000 |
|   | 小計          |  | 1,445,000 |

##### (2) 年鑑編集・刊行事業

|   | 事業名         | 概 要   | 金額(円)   |
|---|-------------|---|---------|
| 1 | 研究紀要「水脈」21号 | <p>館が所蔵する文学者や書家に関する作品や資料などの調査研究を行い、その成果を紹介するために刊行した。</p> <p>B5版サイズ 700部<br/>         販売価格: 無料</p> | 249,480 |
|   | 小計          |   | 249,480 |

##### (3) 教育普及育成事業

|   | 事業名                           | 概 要  | 金額(円)   |
|---|-------------------------------|--|---------|
| 1 | 文学講座<br>芸術・文化を語る              | <p>徳島ゆかりの芸術家や文化人に専門分野の話をしていただき、心豊かな社会の生き方について考える講座。NPO法人Arts Shikoku代表理事の石原佑さん、当館館長の富永正志、作家の京橋史織さん、イラストレーターの福田利之さんの徳島ゆかりの4人が講演した。いずれも専門家ならではの見識と豊富な経験に学ぶところが多く、充実したものとなった。</p> <p>日時: 令和6年6月～9月(全4回)<br/>         受講者数: 216人<br/>         受講料: 無料<br/>         会場: 講座室・ギャラリー</p> | 356,474 |
| 2 | 文学講座<br>小説を書こうー佐藤洋二郎の創作講座 実践編 | <p>優れた作家でありながら、指導の名手としても知られる佐藤洋二郎さんによる創作講座。文学賞への応募を目指し、言葉による確かな表現を身に付けた。</p> <p>日時: 令和6年6月～9月(全4回)<br/>         受講者数: 105人<br/>         受講料: 無料<br/>         会場: 講座室</p>   | 755,576 |

## (3) 教育普及育成事業

|   | 事業名                           | 概 要  | 金額(円)   |
|---|-------------------------------|--|---------|
| 3 | 第4回 原爆朗読劇<br>「夏の雲は忘れない」       | 女優の山口果林さんらが12年にわたって上演し続けた原爆朗読劇を当館が引き継いでから4年目の今回も、大人の朗読者に鳴門教育大学附属小学校の児童4人が加わった。情感あふれる朗読に、参加者からのアンケートでは、世代を超えて語り継いでいくことの大切さを訴える声が多かった。<br><br>日時: 令和6年8月4日(日)<br>受講者数: 95人<br>受講料: 無料<br>会場: ギャラリー                     | 500,774 |
| 4 | 第23回 言の葉朗読会                   | 開館以来、毎年開催している言の葉朗読会には、26組、総勢35人が出演した。幅広いジャンルの作品が朗読され、群読など工夫を凝らしたものもあり、楽しく充実した朗読会となった。<br><br>日時: 令和6年9月15日(日)<br>受講者数: 77人<br>受講料: 無料<br>会場: 講座室   | 3,500   |
| 5 | 秋の文学講演会 I                     | 文芸誌などに盛んに執筆する一方で、IT企業の役員としてのキャリアも注目される作家の上田岳弘さんを招いた。作家を志したきっかけ、デビューの経緯、全く異なる業種をこなすことの有益性のほか、文学、とりわけ純文学の読者数が激減している今日、それでもなぜ純文学を書くのかを語った。<br><br>日時: 令和6年10月13日(日)<br>受講者数: 60人<br>受講料: 無料<br>会場: ギャラリー                | 542,292 |
|   | 秋の文学講演会 II                    | 芥川賞ほか、数々の文学賞を受賞した作家の荻野アンナさんを招いた。瀬戸内寂聴と荻野さん、荻野さんの同居者の3人の関わりについて触れ、参加者は興味深そうに耳を傾けていた。質疑応答では、芥川賞受賞作の「背負い水」に描かれた心情の真偽についてや、落語家としての活動についてなど、さまざまな質問が寄せられた。<br><br>日時: 令和6年11月10日(日)<br>受講者数: 120人<br>受講料: 無料<br>会場: ギャラリー |         |
| 6 | 古典を読む<br>「続・寂聴が好きだった源氏物語の女たち」 | 堤和博徳大大学院教授が講師を務める「源氏物語」についての講座。瀬戸内寂聴が『私の好きな古典の女たち』で取り上げた女三宮と浮舟を紹介し、深く読み込んだ。<br><br>日時: 令和6年11月～令和7年3月(全4回)<br>受講者数: 159人<br>受講料: 無料<br>会場: 講座室   | 95,000  |

## (3) 教育普及育成事業

|    | 事業名                    | 概 要   | 金額(円)   |
|----|------------------------|---|---------|
| 7  | 書道講座<br>一流書家による席上揮毫    | 現代書壇を代表する書家が作品制作の姿を披露する書道講座。令和6年度の講師は日展準会員で青潮書道会理事長の松村博峰さん。前半は、「徳島」の“徳”の一字を15種類もの書風で書き分け、基盤にした古典の特徴や時代背景を解説した。後半は『論語』の一節や書論としても有名な『書譜』、鳴門の渦潮を詠んだ俳句などを条幅に揮毫した。<br><br>日時:令和6年7月14日(日)<br>受講者数:171人<br>受講料:無料<br>会場:ロビー   | 200,200 |
| 8  | 書道講座<br>書道講演会          | NHK大河ドラマ「光る君へ」の題字揮毫や、主演の吉高由里子さんら出演者への書道指導で知られる根本知さんを迎えての講演会。「書と時代性—歴史を彩る書跡たち—」という演題で、中国書道史から書体の成り立ち、平安書道から現代書壇に至るまで、代表的な古典や、書家とその作品を題材に、分かりやすく説明した。<br><br>日時:令和6年7月20日(土)<br>受講者数:134人<br>受講料:無料<br>会場:ギャラリー   | 134,819 |
| 9  | 書道講座<br>書の鑑賞           | 書跡史学者で、テレビ東京の人気番組「開運 なんでも鑑定団」で書の鑑定士を務めている増田孝さんによる講座。講師が所蔵する烏丸光広の書状を会場に展示し、その書状に書かれている文字を一字ずつ丁寧に解説して内容を説明した。<br><br>日時:令和6年11月24日(日)<br>受講者数:96人<br>受講料:無料<br>会場:ギャラリー   | 191,177 |
| 10 | 書道講座<br>新春 書き初め 大字に挑戦! | 毎年恒例の小学生対象の講座。1年生から6年生まで16人が、伝統文化の「書き初め」にちなんで特大筆(全長46cm、穂の長さ14.5cm×穂の直径4cm)と68cm×70cmの紙を使って大字作品を制作した。初めに当館職員が書き初めの由来や、筆の持ち方、書く姿勢などを説明し、その後約1時間で、各自が書きたい漢字一字を、墨をたっぷり含んで重くなった筆で、体全体を使って揮毫した。最後には迫力のある大字作品が仕上がって、1月15日から2月2日まで1階ロビーに展示した。<br><br>日時:令和7年1月11日(土)<br>受講者数:19人<br>受講料:無料<br>会場:講座室・実習室 | 43,000  |

## (3) 教育普及育成事業

|    | 事業名                  | 概 要   | 金額(円)     |
|----|----------------------|---|-----------|
| 11 | 書道講座<br>書道実技講座－近代詩文書 | 京都市在住の書家で毎日書道展審査会員の八木花海さんによる、近代詩文書の作品制作を行う実践的な講座。受講者が選んだ題材で、訳35cm×67cmの紙に作品を完成させることを目標に講義と実習を行った。「漢字と平仮名の調和」を図るための実習では、瀬戸内寂聴の著書『京まんだら』の題字を制作し、受講者が制作意図を発表。作品の構成や筆使いなどを指導し、最終回に作品が完成した。作品は4月12日から5月11日まで1階ロビーで展示した。<br><br>日時:令和7年2月～3月(全3回)<br>受講者数:30人<br>受講料:無料・材料費実費<br>会場:実習室 | 140,996   |
| 12 | ここのはロビーコンサート         | 文学書道館の存在を知ってもらい、気軽に足を運んでもらうことを目的として開催。各回、徳島ゆかりの演奏家には、言葉や文学にまつわる曲、開催中の展覧会に関わる曲をプログラムに組み込んでもらい、文学書道館ならではの独自性を生み出した。<br><br>日時:令和6年5月～7年3月(全6回)<br>入場者数:920人<br>入場料:無料<br>会場:ロビー   | 1,327,786 |
|    | 小計                   |   | 4,291,594 |

## (4) 展示事業

|   | 事業名                               | 概 要   | 金額(円) |
|---|-----------------------------------|---|-------|
| 1 | 文学常設展<br>瀬戸内寂聴記念室<br><br>(常設展示事業) | 瀬戸内寂聴の人生の歩みと寂聴文学を紹介している。京都・嵯峨野「寂庵」を模した書斎や、心和む日本庭園を設置。年1回程度の展示替えも行っている。<br><br>期間:通年<br>会場:瀬戸内寂聴記念室          | —     |
| 2 | 文学常設展<br>文学常設展示室<br><br>(常設展示事業)  | 徳島ゆかりの文学者とその作品、著名作家が徳島を描いた文学作品などをさまざまな角度から紹介している。展示室では、企画展も開催している。<br><br>期間:通年<br>会場:文学常設展示室               | —     |
| 3 | 文学常設展<br>収蔵展示室<br><br>(常設展示事業)    | 瀬戸内寂聴寄贈による日本近代女性史の貴重な研究資料など、豊富な資料を保管している収蔵庫内をガラス越しに公開している。また、特別展に関連した展示や収蔵品の紹介も行う。<br><br>期間:通年<br>会場:収蔵展示室 | —     |

## (4) 展示事業

|   | 事業名                                 | 概 要   | 金額(円)     |
|---|-------------------------------------|---|-----------|
| 4 | 書道常設展<br>書道美術常設展示室<br><br>(常設展示事業)  | 収蔵品の中から、徳島ゆかりの書家の作品を中心に展示している。また、小坂奇石の息づかいが感じられる書斎を再現。年3回、展示替えも行い、豊富な作品を幅広く紹介している。<br><br>期間:通年<br>会場:書道美術常設展示室   | —         |
| 5 | 文学特別展<br>寂聴とインド<br><br>(特別展示事業)     | 瀬戸内寂聴が出家後、約20年の間に8回訪れたインドでの旅の全貌を当時の写真や取材ノート、紀行文などで紹介。また、寂聴自身が執筆に際してインドでの経験が生きたと語っている小説『釈迦』が書き上げられた過程も併せて紹介した。<br><br>会期:令和6年4月9日(土)～5月26日(日) 42日間<br>入場者数:360人<br>観覧料:260円～520円<br>会場:特別展示室・収蔵展示室   | 984,335   |
| 6 | 書道特別展<br>受贈記念 青山杉雨展<br><br>(特別展示事業) | 文化勲章受章の書家・青山杉雨(1912-93)は、戦後の書のリーダーとして書壇を牽引した。一作ごとに表情の異なる作品は、どれもが実証的な書学と理論に基づくもので、独自のスタイル、多様な表現で高い評価を受けている。本展では、2022年度に当館へ寄贈された杉雨の作品101点を2期に分けて初公開。代表作「騰雲颯颯(とううんひょうひょう)」を中心に、仮名や絵画作品も展示した。<br><br>会期:令和6年6月14日(金)～8月4日(日) 44日間<br>入場者数:1,551人<br>観覧料:260円～520円<br>会場:特別展示室・書道美術常設展示室 | 1,713,139 |
| 7 | 文学特別展<br>太宰治 創作の舞台裏<br><br>(特別展示事業) | 自殺未遂や薬物中毒を繰り返すなど自らも苦悩しながら数々の名作を残した作家・太宰治。青森の生家・津島家についての資料や学生時代の同人誌などから太宰のルーツに迫るとともに、21歳の時の心中事件の資料も展示。また、徳島県の剣山を舞台に鬼の前で阿波踊りを披露する「瘤取り」など『お伽草紙』の原稿も展示した。<br><br>会期:令和6年8月10日(土)～9月23日(月・振休)<br>38日間<br>入場者数:1,502人<br>観覧料:260円～520円<br>会場:特別展示室・収蔵展示室                                  | 3,974,148 |

## (4) 展示事業

|    | 事業名   | 概 要  | 金額(円)     |
|----|---|--|-----------|
| 8  | 書道特別展<br>源氏物語と日本古典文学―石川九楊展<br><br>(特別展示事業)    | 書家で評論家の石川九楊(1945-)は、現代における書の表現の可能性を追求し続け、これまでに2000点を超える書作品を制作。評論と制作を通して現代美術のような独自の世界観を持つ書を生み出し続けている。本展では、代表作「源氏物語書卷五十五帖」(55点)の全作品を公開したほか、「歎異抄」「徒然草」「方丈記」など日本の古典文学を題材にした作品、あわせて67点を展示し、独創性あふれる石川九楊の世界を紹介した。<br><br>会期:令和6年10月5日(土)～11月17日(日) 38日間<br>入場者数:530人<br>観覧料:260円～520円<br>会場:特別展示室・書道美術常設展示室                 | 3,818,761 |
| 9  | 文学特別展<br>編集者・谷田昌平と第三の新人たち 徳島編<br><br>(特別展示事業) | 徳島で少年時代を過ごした谷田昌平(1923-2007年)は、遠藤周作、吉行淳之介、安岡章太郎、庄野潤三など「第三の新人」と呼ばれる若き作家たちとの交流の中で、編集者としての手腕を発揮し、伝統ある文芸雑誌「新潮」の編集長に抜擢された。第三の新人以外にも、安部公房、大江健三郎、司馬遼太郎など、時代を映し出す多くの作家と接し、数々の名作を世に送り出した編集者・谷田昌平の仕事と生涯に迫った。<br><br>会期:令和6年12月17日(火)～<br>令和7年2月11日(火・祝) 42日間<br>入場者数:249人<br>観覧料:260円～520円<br>会場:特別展示室・収蔵展示室                    | 4,068,772 |
| 10 | 書道特別展<br>小坂奇石―大分に残る名品<br><br>(特別展示事業)         | 昭和を代表する書家・小坂奇石(1901-91年)は、書道研究団体「璞社」の会長として各地で書の錬成会を行い、九州にも年に2度、20年以上にわたって足を運んで門人を指導した。このうち大分県では奇石の教えを受けた人々によって書風が受け継がれるとともに、多くの奇石作品が愛蔵されている。本展では、その中から作品47点と関連資料を展示し、現代書道二十人展の出品作や代表作とは別の魅力を持つ控え作品など、当館初公開となる貴重な作品ばかりを紹介した。<br><br>会期:令和7年2月15日(土)～3月23日(日) 32日間<br>入場者数:447人<br>観覧料:260円～520円<br>会場:特別展示室・書道美術常設展示室 | 2,063,658 |
| 11 | 企画展<br>追悼・森内俊雄―眉山は救いの山である<br><br>(企画展示事業)     | 当館の常設展示作家で、昨年8月、86歳で亡くなった森内俊雄さんを偲んで企画した。8歳の時、徳島大空襲に遭った体験を描いた「眉山」(芥川賞候補作)の直筆原稿や、亡くなる少し前に当館館長に宛て「もう一度、眉山をこの目で見たい」とつづった手紙、文芸雑誌に掲載された追悼文などを展示。亡くなるまで抱き続けた眉山への思いや、空襲体験が人生と文学の原点になったことなどを紹介した。<br><br>会期:令和6年6月29日(土)～9月29日(日) 79日間<br>入場者数:3,107人<br>観覧料:100円～310円<br>会場:文学常設展示室  | 295,403   |

## (4) 展示事業

|    | 事業名   | 概 要   | 金額(円)      |
|----|---|---|------------|
| 12 | 企画展<br>中林梧竹－『梧竹堂書話』に学ぶ<br><br>(企画展示事業)              | 主に明治時代に書家として活躍し、現代にも通じる芸術的な作品を残した“明治の三筆”の一人、中林梧竹。当館では開館以来、毎年、テーマを設けて梧竹の展覧会を開催し、梧竹作品の魅力を紹介している。今回は、当館所蔵の書作品18点や関連資料とともに、梧竹の書論『梧竹堂書話』の文章の一節を展示し、作品の根底にある梧竹の考えを紹介した。<br><br>会期:令和6年8月6日(火)～9月29日(日) 47日間<br>入場者数:1,768人<br>観覧料:100円～310円<br>会場:書道美術常設展示室   | 208,872    |
| 13 | 企画展<br>山下富美－“生活の炎”を見つめた歌人<br><br>(企画展示事業)           | 徳島市生まれの歌人・山下富美(1925-2012)は、1958年、化粧品店を営みながら警察官の夫との暮らしを詠んだ「人像標的」50首で第1回短歌研究新人賞の推薦第1位に選ばれ、脚光を浴びた。「四国水甕」創刊にも携わり、「水甕」選者や徳島新聞の歌集評を長く担当するなど、歌壇に大きな足跡を残した。ひたむきな人生と作品を、歌集や雑誌、歌稿、写真などとともに紹介した。また、歌を通じて懇意にしていた瀬戸内艶・寂聴姉妹との交流の様子も展示した。<br><br>会期:令和6年11月3日(日・祝)～<br>令和7年2月2日(日) 72日間<br>入場者数:744人<br>観覧料:無料<br>会場:ギャラリー | 350,354    |
| 14 | 書道企画展<br>第9回 書道創作グランプリ－手本のない“実力”作品展<br><br>(企画展示事業) | 徳島県内の小学4年生から高校生までを対象とする書道コンクール。作品応募による予選を行い、予選通過者を対象に当館で本選を実施。本選当日に課題を発表し、お手本なしで創作する全国でも稀なコンクールである。今回は席書作品255点と招待参加者(これまでのグランプリ受賞者、準グランプリ2回受賞者)の作品を展示し、各学年・部門のグランプリ、準グランプリ、優秀賞受賞者79人を表彰した。表彰式後、四国大学の学生が書道パフォーマンスを行った。<br><br>会期:令和6年11月30日(土)～12月8日(日) 8日間<br>入場者数:529人<br>観覧料:無料<br>会場:ギャラリー               | 727,272    |
|    | 小計  |   | 18,204,714 |
|    | 合計  |   | 24,190,788 |